中高生とスマートフォン

【第１回】～いま何が起きているのか～(2013.10)

お子さんはスマホですか？それともまだガラケー？ お母さん自身はどうですか？
携帯キャリア同士で激しいユーザー争奪戦が繰り広げられていることから、割引サービスの一環で、家族全員一気にスマホに乗り換えたご家庭も多いのではないでしょうか。2010 年の iPhone のヒット以降、瞬く間にそれまでの携帯電話（以下ガラケー）を駆逐し、今やどこの携帯会社のお店にいっても、そのほとんどをスマホやタブレットが占め、ガラケーは申し訳なさそうに店の隅に何機種かあるだけです。また、故障などで必要に迫られて店頭に出向いても、割引サービスや特典などが手厚いスマホへ巧みに誘導され、その気はなかったのにスマホに乗り換えてしまったなんて話もよく聞きます。

5 月に博報堂ＤＹホールデングスが発表した調査*1 によれば、スマホの保有率は 45.6%となり、半年前の調査（39.1%）から 6.5 ポイント上昇し 5 割に近付きました。この調査では、年代別は 20～29 歳が最多の 71.6%で次いで 15～19 歳の 70.4%となっています。総務省が 7 月に発表した平成 24 年版の通信利用動向調査*2 でも、パソコンの保有率が下がる一方で、スマホは前年の 29.3%から 49.5%となり急速な普及が確認できます。

もっとも、周囲のスマホ率はもっと高く感じます。実際、都内の女子高に通う娘の周囲を確認したところ、ガラケーを持っている同級生を見つけるほうが難しいとのこと。高価なだけでなく、継続的にサービス料が発生するにも拘わらず、多くの未成年の子どもたちが手にしています。

そして今、スマホは大人以上に中高生に甚大な影響を及ぼしつつあります。問題を大まかに分けて考えると、**「膨大な時間ロス問題」**、**「誘惑に飛び込むハードル低下問題」**、**「悪質なアプリ問題」**、そして**「経済的な問題」**です。これらは、ガラケー時代からある問題がパワーアップし、さらにスマホ特有の問題が新たに加わったことで、より複雑なトラブルを生んでいます。次回からは、それぞれの問題を整理してみたいと思います。 (平野理華)

*1「 全国スマートフォンユーザー1000 人定期調査」第 5 回 2 月 22～24 日に全国の高校生から 69 歳のスマートフォンユーザー男女 1000 人(スクリーニング 1 万人)にインターネットによる調査

http://www.hakuhodody-holdings.co.jp/news/pdf/HDYnews130514.pdf

*2 平成 24 年版通信利用動向調査（総務省）

http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05a.html

【第２回】～全国の中高生を鬱病にする LINE の既読機能①～(2013.10)

LINE は、家族や友達同士とチャットできる便利なサービスです。一部に有料スタンプはあるものの、通話機能も含め多くは無料です。親としても、なるべくこのようなサービスを賢く利用し、少しでも携帯料金を節約してほしいもの。

…などと思ってはいけません。実は今、子供をめぐるスマホ問題の一つである「膨大な時間ロス問題」は、このような無料のサービスの優れた機能が原因になっています。そこがひとこ

ろの、出会い系やコンプガチャなど、その課金の仕組みから消費者問題に発展した点と大きく異なる部分です。

その最たるものに LINE の既読機能があります。LINE に疎いお父さんやお母さんも、パソコンでメールを発信する際、開封通知を付ける仕組みはご存じの方も多いでしょう。相手がメールを既読したかを確実に知ることが出来る便利な機能です。しかし受け取る側にしてみれば、いつ、何時何分にメールを見たかを相手に知らしめることになり、また「あなたがちゃんと見るか心配だから、開封通知付けるよ！」といわれているようで、あまり気持ちの良いものではありません。そこで現在では重要なメールでさえ、その重要度を示すフラグを付ける程度にとどめ、親しい間柄や特別な事情がない限りメールの開封通知は使わないのがビジネスマナーとなっています。

一方 LINE では、メールの開封通知と同様の機能が強制的に付加されています。親しい友達と確実に情報共有できるので、本来はとても便利な機能です。ですが、実は子供が利用した場合、毎日顔をあわせる狭いエリアでの「より親しい間柄」になることが多く、深刻な問題に発展しがちです。ちょっとしたつぶやき提案や遊びの誘いに対しては Yes か No を、他愛のない一言には相槌や励ましの言葉を、はたまた他の友人の中傷に至るまで四六時中即答を迫られることになるからです。直ぐには断りづらいから「しばらく様子を見て」とか、相手の気持ちを害さないように「よく考えて返事する」、「ホトボリが冷めるまで待つ」などが許されないのです。

やっかいなことに、自らも即レスがない時（スルーされた！！）のブルーな気分を経験しているので、この強迫観念が強く働きます。部活やサークルなどの連絡網として大勢で使われている場合には、上下関係が絡むため、即レスへのシバリはさらにキツくなります。その結果、気の弱い子やまじめな子、あるいは心が弱っている時ほど片時もスマホを離せないという、悪循環に陥ることになるのです。

確かに、かつてのガラケー時代にも、大量のメールのやり取りで、一部にメール依存症と呼ばれる中高生はいました。しかし、スマホになった途端、メッセージのやりとりをグループで共有する便利な機能がアダとなり、多くの子供たちがこの既読機能による負のループに巻き込まれ、その結果「膨大な時間ロス問題」を抱えているのです。さらに、LINE へのアクセスを控えても、常に携帯しているスマホの場合、ワザと既読がつかないよう画策しているのでは（スルーしたいのでは？？）と今度は猜疑心を抱くことになり、お互いに悶々とした時間まで共有することになります。

最近ニュースになっているスマホ依存やトラブルも、急速に普及した LINE の既読問題が大きなウェートを占めていることは間違いなさそうです。今や子供たち（大人も！）の間では、メールに代わるコミュニケーションのツールとなっている以上、やめさせることも難しく親としては頭の痛いところです。対策は簡単ではなさそうですが、次回は解決策を探ってみたいと思います。（平野理華）

【第３回】～全国の中高生を鬱病にするLINE の既読機能②～(2013.10)

スマホのアプリは、操作が単純で簡単なため、知識やスキルのない子供でもその場でダウンロードしてすぐに使いこなすことができます。LINE も簡易な仕組みと優秀な機能を併せ持っているため、人間関係がうまくいっている時には、ノリをタイムリーに共有できるので盛り上がりやすく、子供たちを夢中にさせます。しかも無料。少し前には考えられなかったことです。一方で、子供たちはほんの少しの綻(ほころ)びによって、今度は猜疑心や鬱々とした時間までも共有するハメになり、いつの間にか膨大な時間を費やしているのです。

それでは今、子供が LINE のやり取りによる「膨大な時間ロス問題」を抱えている場合、親としては、どうしたら良いのでしょう。もちろん LINE から一時的にでも退会させることが根本的な解決ですが、友達関係もあるのですぐに退会させるのは難しいのではないでしょうか。そこで、２つの方法を考えてみました。

第一に、スマホから LINE のアプリを削除し、パソコンからのアクセスだけにする方法です。この場合、少なくとも、携帯することでだらだらと続いていた時間ロスや、即レスへの強迫観念から解放されます。なにより、常に LINE 中心だった頭をクールダウンすることができます。その際、親も LINE の便利さと距離を置く覚悟が必要でしょう。

次に、スマホを持っていることでそれも難しい場合はどうでしょう。思い切ってガラケーに変えるという手段があります。実はガラケーでも LINE はできますが、メッセージの通知をメールで受信し、そこからアクセスするのでワンクション手間がかかります。また、既読機能がなく、接続中もいちいち更新をかけないと最新情報が見られないという不便な仕様になっています。正に、この LINE の利点を損なうガラケーの不便さを逆手にとることで、既読に一喜一憂することや、「ワザと既読がつかないようにしているのでは？」という猜疑心による悶々としたストレスから降りる（解放させる）ことができるのです。同時に、即レスがしにくい状況に身を置くことで、LINE の向こう側にいる相手と適度の距離が生まれるのではないでしょうか。

もっとも、これらを実行するは簡単ではありません。まずは本人に通告し、一定の条件と猶予期間を与えた後、守れなければ確実に実行します。次に、友達に対して、「親にスマホから LINE を削除された」「親にガラケーに変えられた」という公示と、物理的にすぐ見られない（スルーしているのではない）という状況説明が必要になりますから、親としても事実はさておき、「堅物の親」「貧乏な親」「容赦ない親」として悪者になり、子供をバックアップする必要があります。また深刻なケースであれば、学校や友達の親御さんたちを巻き込んで、全体的な対策をとる必要があるかもしれません。

いずれにしても今、多くの子供たちが LINE の負のループに巻き込まれています。もっとも、うまくスルーする子、断ち切れずズルズルと留まる子、さらには心まで病む子まで様々です。親としては事前に予防線を張りたいところですが、反抗期の子供に対して、細かいルール決めや十分に話し合うなどのセオリーは、画餅に帰すこともしばしば。出来ることは自ずと限られてしまいます。まして経済的な負担などの大義名分のない場合、干渉するのはとても難しい。私たち親が日ごろからできることは、携帯電話会社からの請求書に表示される「パケット量」

をこまめにチェックし、使用状況に関心を持つことくらいではないでしょうか。

しかし、もしその時が来たら、その子に適した方法で毅然と対応するしかありません。私たちの祖父母世代の合言葉であった「タダより高いものはない」をいま一度心に刻んで。

（注）現時点では、パソコンからのアクセスにおいても、ガラケー同様に既読機能はありません。近いうちにバージョンアップされるのではと言われています。　(平野理華)

【第４回】～気持ちが疲れないために必要なこと～(2013.11)

６年間使った携帯電話を「スマホ」に変えました。せっかく変えたのだから、スマホらしいことをやろうと思い、子どもとのやり取りはLINEですることにしました。「ご飯は冷蔵庫に入っているよ」「鍵は植木鉢の下に置いた」…親子間のやり取りは、全てが事務連絡です。娘は、ひとつひとつのやり取りに「わかった」の一言やスタンプがかえってきますが、息子は全く何も返事が返ってこず、「既読」の二文字が時間の上に現れるのみ。もともと愛想のいい子ではないし、息子なんてこんなものかと思う反面、どんな行動をするつもりかわからず事務連絡の用をなさないこともあり、気持ちとしても少しさびしく感じます。

自分の息子なのでこれでも問題はないのですが、例えば部活の仲間とのやり取りの中でのことなら、「既読」の記録が残ったことで「読んでるのに返事がないのはなぜ？なにか怒らせるようなこといったかなぁ」と、きっと心配になるでしょう。相手を思いやれば思いやるほど、空気を読めば読むほど、自分自身は精神的に疲れていくことになります。そのことで、相手に不信を抱き、関係にひびが入っては、何のためのコミュニケーションツールなのかわかりません。

「怒らせちゃったかな？」とマイナスに考えるだけでなく、「読んだけど、ちょっと考えているのかも」「返事をするために確認したいことがあるのかな？」…なんでもいいから、プラス思考で考えてみることも大切かもしれません。そのためには、リアルなコミュニケーションをしっかりとって、信頼関係をしっかり築く必要がありますね。そして、いったんできた信頼関係を疑わないこと。他人を信頼できるのは、自分自身を大切にして自分を信頼できるからこそ、つまり、「自己肯定感」です。顔が見えない分、相手のことも自分のこともより肯定的にとらえる必要があるように思います。

それに加えて、信頼関係を失うことを必要以上に怖がらないこと。失うことは確かに怖いけれど、「世の中には、時にはこんなこともあるよね」って、スル―できる強さを持って欲しいと思います。「来る者を拒まず、去る者は追わず」「自分は自分でいい」と思える、やはり、自己肯定感ですね。また、周りの大人が失敗する姿を見せてもらうのも、自分に勇気を与えてくれます。「あの人でもそうなんだから、自分に同じことが起こることもあって当然だ」と考えられれば、怖さが軽減されるはずです。

「マイペース」というと時にはマイナスにとらえられることもありますが、「自分は自分でそれでいい」と思える強さが、顔の見えないコミュニケーションをとる上で、自分を精神的疲弊から守ってくれるお守りになるのではないかと思います。(藤原典子)

【第５回】～誘惑へのハードルが見えなくなった子どもたち～ (2014.1)

フェイスブックの登場で、ネットに実名出すことや、写真や動画をアップすることについて、抵抗がなくなっています。

だってみんな出しているもの…。

ツィッターの登場で、インターネットに書き込む際のハードルがなくなっています。

そもそもその場のノリで書くものだし…。

前回までは、「膨大な時間ロス問題」としてLINEの既読機能の問題を取り上げました。今回からは、「誘惑に飛び込むハードル低下問題」について考えてみたいと思います。

フェイスブックで知り合った交際相手に、女子高校生がストーカー行為の末殺害された三鷹の事件では、犯人の執拗な行為だけでなく、交際中に撮ったとされる動画がネット上に流れたことで、娘を持つ私たち親は大きな衝撃を受けました。

実際、今の中高校生は、彼氏に簡単に下着姿や裸の写真を撮らせるものなのでしょうか？娘にストレートに聞いてみると、「彼氏のいないアタシに聞かないでよ！！」とムッとしながらも、「大好きなカレシに頼まれたら、断れない子も多いんじゃない？」と言い、「だって別れると思ってないし、まさか公の場にアップされるなんて思わない」と言い放ち再び衝撃を受けました。

じぇじぇじぇ！生まれた時から男女平等、機会均等の恩恵をうけ、自己主張をすることを是とする教育を受けてきた現代の「元気すぎるＪＫ(女子高校生)」が、果たして写真や動画を撮られることに対し、嫌だとはっきり言えないものなのでしょうか。昭和に青春時代を送った私たち親世代には、全くもって考えが及びません。もっとも私たちの時代、彼氏がカメラだの８ミリビデオだのを持ち出し、下着姿を撮らせてくれなんて言おうものなら、その場で「変態！」と叫び、さよならしていたことでしょう。しかし今や、皆が常にスマホを携帯し、友達同士で日常的に撮ったり撮られたりしています。その為、画像に残すことで何が起こりうるのか、想像する隙を与えません。これが、警戒心を著しく低下させる原因ではないでしょうか。

更にＳＮＳや投稿動画サイトの発達と、スマホの機能の向上によって、初心者なら当然通るべきワンクッション、ツークッションさえほとんどなくなっているのです。もう、パソコンに詳しいお父さんや、友達の手を借りることもありません。最近では、リベンジポルノなどという嫌な言葉も出てきましたが、この問題は決して特別な子どもたちの間で起きている問題ではないように思います。

正に、スマホという武器を手にした子どもたちが、さまざまなハードルを簡単に乗り越え、その無知と純粋さゆえに自ら深い傷を負っているのです。(平野理華)

【第６回】～スマホという武器で傷つく子どもたち～(2014.1)

確かに、ガラケー時代も出会い系サイトや神待ちサイトなど、子どもたちを巡って様々な誘惑や問題はありました。しかし、そこには誘惑を阻む歴然としたハードルがあったはず。多少なりとも書き込みや登録をする際に、躊躇や警戒心があったのではないでしょうか。

しかし現在の状況は違います。スマホを持ったことで、ノリで写真や動画をアップすること、

されることに抵抗がなくなっているのです。その為、なんとなく危ないなとか、ヤバイかな…という警戒心が働かず、ある日突然、いつもの安全な場所で、崖から突き落とされるようにトラブルに巻きこまれていくのです。

ふざけて行った行為が、ちょっとした強がりが、突如、迷惑行為や未成年飲酒・喫煙という犯罪行為として糾弾され、犯人探しが始まります。その結果、かつて友達がアップした写真や、ブログに書いたささやかな個人情報が、スマホによってリアルタイムに次々に紐付けられることで、予想もしない手痛い制裁を受けることもあるのです。

実際、私の知っているケースでは、軽い気持ちで載せた飲酒の画像が元で、掲示板で犯罪者と叩かれ、本名、学校名、所属している部活などが次々に明かされ、転載が続きました。こうなると、なかなか全てを削除しきることは出来ません。優秀な検索ツールが、蜘蛛の子を散らすように転載された誹謗中傷ワードを、どこまでも探し続けるからです。リアルの世界なら、生徒指導や親子面談で済んだのに…。

更に深刻なのは、誹謗中傷者が全くの他人なのか、或いは近しい友人も含まれているのかが見えないことです。

しかもこれらは、安全な場と思い込んでいるいつものサイトが発端です。「いいね！」や「ふぁぼ！」などの反響が欲しくて、いつものように無邪気に写真をアップしただけなのです。昨年大きなニュースになった、アルバイト店員による迷惑行為写真の問題なども、同じように無邪気な延長線上で行われたのではないでしょうか。

これは決して、最近の若者のモラルが著しく低下したのではありません。大人がスマホという高性能の武器を無防備に持たせ、初心者でも簡単に投稿出来るＳＮＳや掲示板を用意したことで、モラルに繋がるハードルを隠したことが原因です。今も子どもたちは、スマホを片手にどんな場所でも写真や動画を撮り、それらをその場のノリや軽い気持ちでネットに投稿し続けています。

スマホという武器で自らを傷つけないために、次回はどのような防御が可能なのかを考えてみたいと思います。　（平野理華）

【第７回】～親として子どもたちをささえたい～ (2014.3)

連絡方法を変えたところ、同じ相手なのにメッセージの内容が違ってきたという経験はありませんか。私と友人の場合、メールでのやりとりではお礼や事務的な連絡が多かったのに、LINEでつながるようになって日常の些細なことまでやり取りするようになりました。とにかく、簡単にメッセージが送れるし、履歴が常に見られて楽しい！ネットに慎重だったはずの私が、日常をさらけ出すことをむしろ楽しむようになりました。

LINE は限られた相手とのやり取りですが、ツイッターやフェイスブックでは知らない相手にも広く知らせることが可能です。しかし、操作の仕方に両者の違いはほとんどありません。スマホを使って日常をさらけだすことに楽しみを覚えたとき、相手が限られているのか不特定多数なのかに神経を使うことがなくなるのではないでしょうか。手軽で簡単なツールであるか

らこそ、同じ操作でもその先に広がっているものに大きな違いがあることを忘れてしまっているように感じます。

写真でも同じことが言えそうです。親が子どもと公園に遊びに行きかわいい姿をカシャッ、おじいちゃんにメールで送信、SNS やブログで育児日記をアップする…写真をスマホで撮り親戚や友人に公開することが習慣化している今の生活の中では、画像をネットに残すことへのハードルは下がりました。特別な日にしかカメラを用意することがなかった親の世代は、写真に撮ってはいけないものの判断ができても、スマホという「カメラ」を日常的に携帯して大きくなった子どもたちはその境目の判断ができなくなっているのではないでしょうか。(参考；中高生とスマートフォン第 5 回～誘惑へのハードルが見えなくなった子どもたち～／第 6 回～スマホという武器で傷つく子どもたち～)

かつて私たちは、「子どもと携帯電話」(2006 年 2 月発行の小冊子『ちいさい目・大きい手』Vol.5）の中で、メール中心のコミュニケーションについて考察しました。その際に指摘したのは、リアルな会話の「くさい」とバーチャルな会話の「くさい」では、相手に与える影響が異なるということでした。リアルな会話では相手の表情やボディランゲージで伝えられることが、文字だけのケータイやスマホの「会話」では自分の意図が充分に伝わらないことがあり、意図に反して友人関係に亀裂が入ることがあるというものでした。それは今も変わらず、たとえデコメがあっても LINE のスタンプ機能があっても、現実の世界での会話と全く同じように伝わるとは思えません。むしろ、簡単にチャットできることがより軽い気持ちやノリだけで発信してしまうことにつながり、相手がどう受け止めるかに思いをはせるわずかな時間さえなくなっています。このようにスマホの登場により新たな問題が生じている反面、ガラケー時代からの問題もよりパワーアップしたといえるでしょう。

一方で、今の中高生、特に JK(女子高生)はバーチャルなやり取りの怖さを身にしみて感じています。(参考；中高生とスマートフォン第２、３回～全国の中高生を鬱病にする LINE の既読機能①、②）スマホの利便性、簡易性は危険な域に達していることに気づくことなく自分自身をさらけ出し、自分の意思に関係なく相手を傷つけ、逆にそれを恐れるあまり自分が疲弊するという悪循環となっている…良好なコミュニケーションツールであるはずのスマホが自分を追い込むことにつながっているとしたら、本当に皮肉な話です。スマホでの様々な問題は、親が子どもとどう向き合っているのかが問われているように感じます。ガラケーでのつながりやすさの先に何があるのか、様々なことにアンテナを張ると同時に、自らの「携帯行動」を振り返りながらスマホを持つ際の良識を子どもに説得力を持って伝えられるような親でありたいと思います。(藤原典子)

【第８回】～個人情報流出トラブル～(2014.6)

コラムの第 2 回から第 4 回までは「膨大な時間ロス問題」として LINE の既読機能を取り上げました。また、第 5 回から第 7 回までは「誘惑に飛び込むハードルの低下問題」としてＳＮＳや投稿動画サイトとスマホの機能の向上によって引き起こされている、誹謗中傷やリベンジ

ポルノなどの問題を考えてみました。今回は、個人情報流出において甚大な被害を及ぼす「悪質アプリ」について考えます。

個人情報流出トラブルの大まかなパターンは 3 つです。「Ⅰ.ガラケーと同じトラブル」「Ⅱ.ＰＣと同じトラブル」「Ⅲ.携帯電話と PC の両機能を持つがための深刻なトラブル」です。

昨年度、全国の消費者センターに約 8 万件もの相談(注 1)が寄せられたアダルトサイトによる架空請求・不当請求のパターンで考えてみましょう。

【図１】登録画面例

迷惑メールや、検索サイトなどを介して、アダルトサイトに接続し、「18 歳以上ですか？」などの年齢認証を何度かタップすると、突然、請求画面になるものです。登録完了と表示して、個体識別番号や登録日時を表示することで、消費者を脅かし、焦らせ、支払を促すものです。近頃では、登録と同時にバイブしたり光ったりするなど、より巧妙なサイトもあります。しかし、【図１】に表示されているような情報から、個人を特定することは出来ません。スマホにおいても基本的に、仕組みは同じため「Ⅰ.ガラケーと同じトラブル」といえます。

もっとも途中にアプリ（ソフトウエア）のダウンロードが絡むことで、「Ⅱ．PC と同じトラブル」に近いケースもあります。PC では請求画面がデスクトップに貼りつき、これを削除するには、厄介な作業（システムの復元等）が必要となります。しかし、スマホでは【図２】のような知らないアイコンが出来て、開くと請求画面が表示されますが、アプリ自体は簡単に削除出来るので、PC よりは受けるダメージは少ないようです。

【図２】 不正なアイコン

問題となるのは、スマホ内の個人情報（メール・電話番号・位置情報等）を抜きとるアプリをダウンロードしてしまった場合です。中には、電話帳内の全てのデータを一気に抜き取るアプリも有り、この場合は詐取される個人情報が膨大となるため、「Ⅲ.携帯電話とＰＣの両機能を持つがための深刻なトラブル」に発展します。

昨年 6 月に警視庁が逮捕した事件では、アダルトサイトを開設し動画再生アプリを装って架空請求画面を表示させ、9252 人のスマホから端末識別番号・GPS 位置情報・電話番号、メールアドレスを詐取していました。更に架空請求により 211 人が 2115 万円を振込んだとされています。また、一昨年、京都府警が逮捕した事件では、「通話無料」「電池長持ち」などの名称のアプリにより、大量の個人情報が収集されていました。報道によれば、ダウンロードした人約 3500 人に対し、収集された個人情報は約 400 万件！ともいわれています。

このように、不用意なアプリのダウンロードによって個人情報が詐取された場合には、情報は闇の名簿屋などを通じて、出会い系サイトへの勧誘や、悪質な電話勧誘販売、更にはオレオレ詐欺に使われることになるのです。

電話帳に「おじいちゃん」、「おばあちゃん」などと登録してあった場合、或いは住所や誕生日などが詳細に登録されていたら、一体どのように使われることになるのでしょう。想像するだけでもゾッとしませんか。皮肉なことに、日ごろから自分では不審なアプリに用心していても、友人や知人の安易なアプリのダウンロードにより、知らないうちに被害が拡散していく、それが携帯型ＰＣであるスマホの特徴なのです。（平野理華）

(注 1)

国民生活センター発表の PIO-NET に寄せられた相談件数の推移より http://www.kokusen.go.jp/soudan_topics/data/adultsite.html

【第９回】～普通のアプリが悪質アプリになる恐怖～（2014.6）

スマホと悪質なアプリ（ソフトウエア）を考える上で、もう一点あげておかなければならない特徴があります。それは、使い方により普通のアプリが悪質なアプリになることです。

2014 年 6 月 5 日、青森地裁は知人女性のスマートフォンに無断で遠隔操作ができるアプリを取り込んだとして、27 歳の男に対して、「不正指令電磁的記録供用罪」などで懲役２年、執行猶予４年の有罪判決を言い渡しました。「不正指令電磁的記録供用罪」というのは、平成 23 年の刑法改正で新設されたウイルスを作成したり、提供した場合に科される罪のことです。

しかし、この男がウイルスを作ったり、感染させたりする知識を持っていた訳ではありません。公式サイトで配布されている、誰でも簡単にダウンロードできる「盗難対策」アプリを、交際していた女性のスマホに勝手に忍び込ませ、ストーカー行為を行ったことで事件化しました。報道によれば、被告は、被害者の女性の通話履歴を 399 回、位置情報を 35 回、盗聴を 666 回行ったとされています。普通のアプリが使い方により、悪質なアプリに変化したといえます。

新聞報道や IPA（独立行政法人情報処理推進機構）などの発表を総合すると、このアプリは遠隔操作により、音声を録音後メールに添付して送信することで「盗聴」が可能。「写真撮影、ビデオ撮影」が可能。「電話の発信・着信の履歴」が確認でき、「アドレス帳に書かれた名前」を見たり、「SMS を読み取る」ことができるようです。更に、GPS 機能なども強制的にオンにし、地図上に「現在地を表示」させたり、「移動ルート」を確認することまで出来ます。気持ち悪いことに、スマホには何の表示もされないばかりか、アプリ一覧からアイコンを消すことが出来るため、持ち主が監視されていることに気づくのは、ほぼ不可能とされています。

普通のアプリと書きましたが、悪意をもって利用出来るように作られているとしか思えないのは私だけでしょうか。そして、このようなアプリが誰でも簡単に公式マーケットで手に入れることが出来るのには驚きです。

スマホは携帯型ＰＣであるが為に、使い方によっては電話盗聴器や監視カメラなどとは、比較にならないほど広範囲に及ぶプライバシーの侵害をもたらすことになります。これは、前回

挙げたパターンの「Ⅲ.携帯電話とＰＣの両機能を持つがための深刻なトラブル」の一つといえます。こんなものを子供のスマホに入れられたらと思うと、本当に背筋が凍る思いです。
（平野理華）

【第 10 回】～悪質アプリから子供を守るために～(2014.6)

それでは、悪質アプリから身を守るためには、どうしたらよいのでしょうか。

ＩＰＡ（独立行政法人情報処理推進機構）の「スマホを安全に使うための 6 項目」を参考にしてみましょう。

① 購入後すぐロックを！（設定）！
② アプリは信頼できるサイトから
③ 不自然なアクセス許可は拒否！（ダウンロード時の了承画面に注意）
④ OS やアプリのバージョンは常に最新に
⑤ 有害サイトから子供たちを守る（フィルタリング）
⑥ 身の上情報の掲載に十分注意を

詳細はＩＰＡのホームページをご覧ください（カッコ内は私が補足しました）。
http://www.ipa.go.jp/security/keihatsu/love_smartphone_life/
mini_book/index.html

一方で、中高生の現実的な対策としてはどうなのでしょうか。①は紛失対策だけでなく、前回取り上げた、アプリを勝手に忍び込ませる等にも有効です。但し、ロックがかかることで子供の交友関係のトラブルの把握が難しくなる点が、挙げられます。実際、なんでも話してくれた小学生の頃とはうって変わって、この時期の子供はとても難しいのです。こっそり携帯をチェックして、この時期を辛抱強く見守っているお母さんも多いのではないでしょうか（賛否は別にして）。

次に②ですが、Android OS アプリの公式マーケットである Google Play には、前回とりあげた「盗難アプリ」だけでなく、今までにも端末情報や電話帳の中身を外部サーバーに送信する等不正なアプリが多数発見されています（審査が甘いため）。また、その際③のように Android の仕様で、ダウンロードの際にパーミッション（スマホ内の情報にアクセスすることへの了承）をとるため、そこで判断することは不可能ではありません。但し、知識があればです。つまり「このアプリにこのパーミッションは不自然だ」と思えるかです。友達情報などから、つまり友達もやってるから大丈夫という「根拠のない自信」を持つ中高生の場合、そこで見分けるのは難しいと思います。

⑤⑥は、正にその通りですが、小学生には簡単でも、反抗期の子供には親の指導では一筋縄ではいかない現実があります。

さてさて、ここまできたところで、改めてもう一度考えてみる必要があるかもしれません。そもそも中高生が、次々にアプリをダウンロードする必要性があるのでしょうか？親は、勉強のアプリもあるので甘い期待を持ちますが、勉強以外の魅力的なアプリの方が絶対的に多いの

です。遊園地に連れて行って、その一角にある学術的展示を見せようとしても、多くの子供はスルーします。だって、楽しい遊園地の中ですから。

そうであれば、中高生にはスマホではなくガラケーを持たせる、あるいはルールが守れなければガラケーに変えるというのが、最も賢い選択に思えます。実際、ショップで聞いたところ、子供のスマホをガラケーに変えるというケースが少なくないそうです。また、どうしても持たせるのなら、悪質アプリに狙われるリスクの低い iPhone　をお勧めします。

我が家の場合は、予備校の席の予約がガラケーからでは出来ないとの苦情を受け、高校 1 年生の秋にスマホに変えました。しかし、女子高ということもあり、直後から LINE や Twitter のやり取りに追われることになり、３か月後に娘自身がネットに接続できないようにしてほしいと言い出しました。今になって考えると、スマホにした時期が遅かったことで、ヘビーユーザーと距離を置けたことが功を奏したのかもしれません。ガラケーに戻す予定でしたが、以前使用していたものはかなり古く、新規に購入しようにもゼロ円携帯はどこへやら、ガラケーのくせにとても高額！やむなくスマホのままネット接続を切り、今は電話として使用し、メールも SMS です。

私たち親世代は、かつて mova から FOMA（docomo）や、CDMA 1X から CDMA 1X WIN（au）という第三世代携帯に機種変更した経験や、J-PHONE のサービス終了に伴ってソフトバンクブランドに機種変更した経験から、同じような感覚で、子供の携帯をガラケーからスマホに変えてしまってはいないでしょうか。

スマホは決してガラケーの上位機種ではありません。このスマホという電話もできる携帯型ＰＣは、携帯電話であるがためにＰＣにはない電話帳やカメラ、ビデオ機能が搭載され、ＰＣであるがために悪質なウイルスに狙われる危険が高くなります。つまり、悪質アプリ問題を考えた場合、詐取されるものが甚大である点が、ガラケーにはないスマホならではの大きな特徴といえるのです。（平野理華）

【第 11 回】～分かっているようで分かってないスマホの仕組み～（2014.6）

最後に、最近友人から受けた相談を付け加えたいと思います。知らないうちに（本当か？）アダルトサイトにアクセスしてしまい登録完了となり、お金を請求するメールが来たというもの。【第８回】で取り上げた事例と同じものです。メールにいろいろ書いてあるが（実際は事細かに聞きました）、払わなくてはならないのだろうか（払わないでください！）。

ここまではよくある話ですが、本題はその後次々に受信した請求メールの最初に、自分の「フルネーム（様）」が記載されている、どこまで個人情報が伝わってしまったのかとても不安だというものでした。

すわ、悪質アプリに仕込まれたウイルスにより情報を抜かれたか！と思ったのですが、使っているのが iPhone で、不審なアプリのアイコンも出来てないといいます。よくよく聞けば、登録完了の画面に表示されていたアドレスに、つい問合せメールをしてしまったと言います。これにより、先方に名前が伝わっていました。

そう、ガラケーでは from アドレスは受信者側の電話帳に登録された名前が紐付きますが、ＰＣでは自分が設定したものが相手に表示されますよね。スマホでも利用しているメールサービスによってはＰＣと同様に表示されます。この友人は、認識のないまま from に自分のフルネームを設定していたのです。この辺りのガラケーとは異なる仕組みについては、意外に分かっている大人は少ないのです。中高生ならなおさらでしょう。

架空請求、不当請求のメールの文頭に自分のフルネームが書かれていたら、大人でもびっくりして動揺してしまいます。もし、中高生がこのような被害にあった場合には、どれだけの精神的なダメージを受けるでしょう。とても心配になりました。

携帯キャリアや、アプリを提供する事業者、そして教育の現場においても、「スマホとうまく付き合おう」という視点で様々な啓発プログラムが提供されており、それ自体は素晴らしいことです。しかしこれまで取り上げてきた「膨大な時間ロス問題」、「誘惑に飛び込むハードルの低下問題」。そして今回の「悪質アプリ問題」を見る限り、もはや中高生にとってスマホ問題は、リテラシー教育の範疇ではなくなってきているのではないでしょうか。様々な手段を講じて、物理的に回避する必要性を強く感じます。

ところで、その一つとして、私自身は最近の格安スマホに注目しています。メールや LINE などのやり取りには遜色ないのに、ウエブを開いたり、動画をみたりするには時間がかかることで、マスコミの評判はいまひとつでした。動画を見ない主婦向けなどと報道されてますが、いやいやこれこそが、機能的にも金額的にも中高生には、ガラケー同様に分相応な携帯電話の一つではないでしょうか。（平野理華）